

平成 30 年 2 月 17 日(土)

平成 29 年度 第 3 回学校協議会議事

於：校長室

1. 開会の辞
2. 校長挨拶
3. 議事
 - ① 本年度の各取組について（学校評価報告）
 - ② 生徒心得について
 - ③ 学校運営協議会について
 - ④ 平成 30 年度の学校運営の基本方針について
 - ⑤ 質疑応答
 - ⑥ その他
4. 閉会の辞

① 本年度の各取組について（学校評価報告）（校長から）

1 「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築

(1) 「グローバル」に視点を置いた取組み

ア ・フィンランドからの長期留学生 1 名を受け入れた。年末の全校集会では音楽選抜生と留学生が合同で「フィンランディア」をフィンランド語で合唱した。また、7 月に香港から 30 名、11 月にインドネシアから 39 名、高校生を受け入れ、1 年生が交流を行った。Brothers & Sisters プログラムで 1 年生が大阪大学留学生 57 名と交流した。〈自己評価◎〉

・宿泊野外行事終了後の生徒アンケートによる満足度は 91%であった。

〈自己評価◎〉

イ ・SET を含め英語科教員が互見授業を行った。英語イマージョンプログラムの参加生徒数 1 年生 111 名（12 月）、2 年生 23 名（1 月）であり、満足度はそれぞれ 94%、96%だった。2 年生は 3 月にも実施予定。〈自己評価◎〉

(2) 「高い志」を涵養し持続させるための取組み

ア ・24 名の卒業生を招いて学問発見講座や卒業生講座を実施した。そのうちキャリア教育に資する講座を 14 講座設けた。他に卒業生の講演会を 1 回実施した。

〈自己評価◎〉

・卒業生の研究室訪問を 8 か所実施し、95 名の生徒が参加した。〈自己評価◎〉

・東京スタディツアーに生徒 19 名が参加した。また、東京在住の卒業生 30 名と交流した。〈自己評価○〉

・学問発見講座の満足度 94%、卒業生講座の満足度 94%、研究室訪問及び東京スタ

ディツアーの満足度はともに 100%＜自己評価◎＞

- イ ・京都大学大学院文学研究科応用哲学・倫理学研究センター、びわこ成蹊スポーツ大学等の協力を得て、課題研究等の授業にのべ 20 名の大学関係者が助言を行った。＜自己評価○＞

2 「二兎を追うたくましさ」を育成するための教育システムの再構築

3 「自主自律の精神」を深化させるための教育システムの再構築

(1) 「二兎を追うたくましさ」の育成とリーダーの育成

- ア ・「リーダー育成プログラムⅠ」・・・1月までに11回実施し、のべ794名の生徒が参加した。外部講師による講演の満足度は3月に集計予定。＜自己評価未確定＞
- イ ・「リーダー育成プログラムⅡ」・・・1月までに9回実施し、のべ349名の生徒が参加した。外部講師によるプログラムへの満足度は3月に集計予定。＜自己評価未確定＞
- ウ ・「リーダー育成プログラムⅢ」・・・1月までに11回実施し、のべ831名の生徒が参加した。理学療法士の協力者数は3月に集計予定。＜自己評価未確定＞
 - ・スポーツ振興センターへの手続き件数は1月末97件。＜自己評価◎＞

(2) 「二兎を追うたくましさ」の育成と「自主自律の精神」の育成

- ア ・12月までの一人あたりの遅刻回数は1.8回。＜自己評価○＞
- イ ・自学自習時間は9月調査によると、2年生平均91分、1年生73分と昨年よりやや減少した。＜自己評価△＞

4 教員の授業力向上のためのシステムの再構築

(1) 授業力向上のためのシステムの充実

- ア ・全教科で年1回以上研究授業を実施した。また、教科指導における意見交換等も行っている。＜自己評価○＞
- イ ・年間の互見授業の回数は教員一人当たり平均2.8回である。＜自己評価○＞
- ウ ・全教員の授業を観察し、生徒へアンケートを行った。生徒からの授業信頼度は88%だった。＜自己評価○＞

② 「生徒心得」について (事務局から)

大阪府教育庁からの指示により、どの府立高校も校則について改定の必要があるかどうか、学校協議会に諮ることになった。ついては、本校の「生徒心得」のうち、服装規定に係る条文をお示しするので、ご確認の上、ご意見いただきたい。

なお、ご覧のとおり、本校の「生徒心得」には頭髮規定はない。

③ 学校運営協議会について (校長から)

平成 30 年度から全府立学校に設置される学校運営協議会について、現状の学校協議会との違いを含めた説明とともに、平成 30 年度の学校運営の基本方針（「学校経営計画」のうちの「めざす学校像」「中期的目標」）についての承認をこの場で得る必要があることの説明を行った。

④ 平成 30 年度の学校運営の基本方針について（校長から）

「学校経営計画」のうちの「めざす学校像」「中期的目標」は、今年度とほぼ同じだが、「めざす学校像」の中の「世界で活躍する人材」という文言を「世界で活躍する人物」に変更した。

⑤ 質疑応答

<「生徒心得」について>

委員：「生徒心得」の各条文を決める手続きはどうしているのか。

事務局：「生徒心得」は学校が決めるが、決定にあたっては生徒会と調整している。生徒会風紀委員会が生徒の意見を聞きながら、必要な場合は学校へ改定の提案をしていく。例えば、カーディガンの使用については、数年前に生徒と教員との議論を経て付け加わったもの。

委員：髪の色（茶髪）、スカート丈が短い、化粧など、一部生徒がしていることもあるが、広がらない。成績が落ちて、茶髪を黒髪に直してきた生徒がいるとも聞いた。生徒なりのけじめのつけ方を知っている。

委員：生徒は個性を示したがる。昔はセーラー服にスカーフをしないことがはやった時期もある。規定は大きくりのほうがよい。

委員：現状の「生徒心得」を改定する必要はない。

<「平成 30 年度の学校運営の基本方針」について>

委員：学校運営の基本方針はいつ承認するのか。

校長：前年度に承認を得ることになっている。

委員：「中期的目標」の区切り（3年間）は毎年シフトするのか。

校長：その年度からの3年間の目標となっている。

委員：「めざす学校像」に「世界で活躍する人物」とあるが、いま日本では世界の大学に行く学生は少なくなっている。文科省は学生をもっと海外へ送れと大学へ言っている。日本人留学生は10年前から半減している。

委員：あまり海外に行く必要性を感じてないのではないか。日本人のノーベル賞受賞者の数を見ても、国内で十分研究ができるのではないか。

委員：それはこれまでの基礎研究のおかげ。いまは国が大学研究に予算をかけなくなっている。30年後は大変なことになる。

事務局：高校から直接海外の大学に行った生徒数は、本校では27年3月卒業生に1名いたが、28年、29年はいない。地元志向の強い傾向がある。

委員：遅刻回数を規範意識やモラルの評価指標とすることに違和感がある。

事務局：本校において規範意識やモラルの評価指標としてどのようなものがふさわしいかは、今後の検討課題としたい。

委員：「中期的目標」は保護者や生徒に示しているのか。

事務局：「学校経営計画及び学校評価」をWebページで公表している。

委員：「人材」と「人物」の違いは何か。

校長：「人材」は歯車、部品というイメージともとれる。自ら社会を動かすイメージをと考え、「人物」という表現に変えた。

(この後、平成30年度の学校運営の基本方針について承認された。)

<課題研究について>

委員：「くずし字の研究」が入っている。文系の課題研究もあるのかと思った。

事務局：各教科からテーマを募っているので、文系、理系にこだわらず、いろいろなジャンルがある。

委員：課題研究のテーマ選択が大学を選択する行動につながっているのか。

事務局：具体的には統計をとっていない。

<リーダー育成プログラムⅡについて>

委員：リーダー育成プログラムⅡは1年生HR委員の育成研修ということだが、HR委員は立候補で選んでいるのか。

事務局：どのクラスのHR委員もほとんど立候補で決まっている。新入生オリエンテーションに参加したいという生徒はとても多い。すぐ下の学年に対する行事を魅力と感じている。

委員：部活の先輩からその行事の魅力を聞いて、研修に参加しようと思うのか。

事務局：オリエンテーションは特定の部活が中心ではない。むしろ、学校説明会に生徒が大勢かかわっているのが、オリエンテーションへの動機付けになっているのではないと思われる。学校説明会では中学生への説明や案内をしている。オリエンテーションでは新入生に対して自治活動についての説明やレクリエーション、部活動の説明などを行っている。

<TOEFL iBT 英語教育について>

委員：TOEFL 対応の英語のカリキュラムは今年度が完成形か。

事務局：SETの活用については来年度末まで。SETはICTを使ったテンポのよい授業をしている。英語科だけでなく、他の教科に対しても公開授業を行い、指導の参考とし

ている。プレゼンテーション、ディベートはもともと行っていた授業内容だが、生徒は英語を話すことに抵抗感が少なくなっている。英語のディベートではなかなか英語で受け答えできないもどかしさがあるのだが、用意したスクリプトを使用するだけでなく、その場でのクイックレスポンスができるようになっている。

「English in Action」の授業選択生 120 名を核としてレベルを上げていきたい。大学入試の英語外部検定に対応したアクティビティ等は定着している。本校では、SET 配置前年度から、英語教育の内容を TOEFL 仕様にして SET 受け入れ態勢を作ったことで、いい結果を生んでいる。

4. 閉会の辞